

8月1日時点の就職活動調査

景気回復による求人増で売り手市場が鮮明になる中、2016年卒業予定者の採用面接が8月1日に正式に解禁され、就職活動が山場を迎えている。8月1日現在の日経就職ナビ・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は7割弱だったことが分かった。選考が解禁されたことにより、学生間の明暗がはっきりと分かれてきたことが様々な指標から読み取れる。

1. 8月1日現在の内定状況

- 内定率は67.3%。7月(50.6%)より16.7ポイント上昇
- 内定社数は平均2.1社。内定者の過半数(53.8%)が2社以上からの重複内定
- 内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは45.0%。継続が50.2%

2. 内定を得た業界

- 「情報処理・ソフトウェア」「建設・住宅・不動産」「電子・電機」の順
- 「保険」「銀行」が急増

3. 8月1日前後の内定企業からの呼び出し有無

- 内定企業から8月1日前後に呼び出しを受けたのは46.6%。解禁当日は21.9%
- 呼び出しに対して「行く予定(行った)」は73.9%

4. 8月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

- エントリー平均59.9社。7月(58.3社)から1.6社の微増にとどまる
- 筆記試験12.5社、面接8.9社。前年実績を上回る

5. 就職活動継続者の動向

- 「持ち駒企業」は平均6.6社。6月(12.8社)から半減
- 就職活動継続者の希望進路、「業界トップ/大手企業」志向が過半数(50.2%)
- 就職活動を終えたい時期は、8月に集中。「8月前半」24.0%、「8月後半」33.8%

6. 内定保持者の動向

- 「他に内定が出なければこの企業に納得して入る」61.1%。7月(56.7%)より増加

7. 未内定者の進捗状況

- 「順調」27.7%、「苦戦」72.3%。「苦戦している」が毎月増加

《調査概要》

調査対象 : 2016年3月卒業予定の全国の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
 回答数 : 1,484人(文系男子464人、文系女子418人、理系男子411人、理系女子191人)
 調査方法 : インターネット調査法
 調査期間 : 2015年8月1日~6日
 サンプルング : 日経就職ナビ2016就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。
 日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

1. 8月1日現在の内定状況

8月1日現在の学生モニターの内定率は67.3%。前回調査(今年7月)の50.6%から1カ月で17ポイント近く増えた。昨年の選考解禁時、つまり昨年4月1日時点の内定率は2割強(23.7%)であったので、今年の内定率の高さが際立つ。1人あたりの平均内定社数は2.1社で、内定者の53.8%が2社以上から内定を得ている重複内定者だ。(表とグラフは次ページ)

内定率を文理別に見ると、文系は男女とも6割台であるのに対し、理系では男女とも7割を超えており、引き続き先行している様子が表れている。

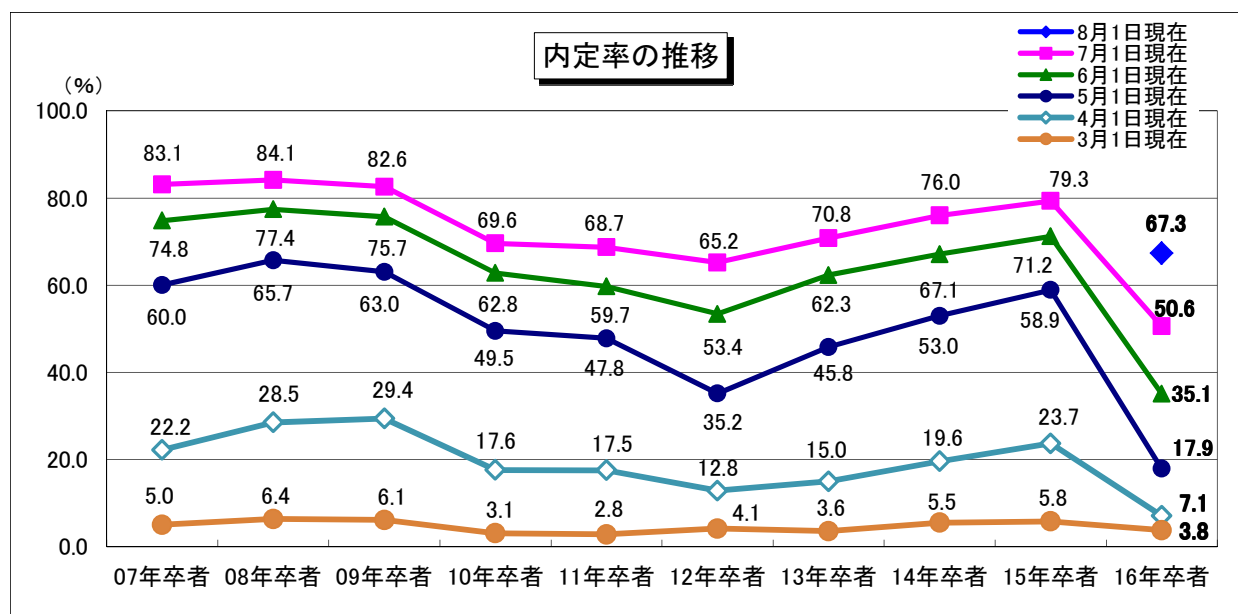
内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了した者の割合は45.0%。6月調査(22.9%)から7月調査(29.1%)にかけて就職先決定者はじわりと増えていたが、8月調査では一気に数字を伸ばした。本命企業から内定を得た学生が増えたと推測できる。ただし、内定者のうち過半数(50.2%)は就職活動を継続していると回答した。学生全体を分母にとると就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は30.3%となる(グラフは次ページ)。

8月1日現在の内定状況

*「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		67.3 (50.6)	65.3 (48.5)	62.2 (45.4)	70.6 (54.7)	76.4 (58.4)
内定なし		32.7 (49.4)	34.7 (51.5)	37.8 (54.6)	29.4 (45.3)	23.6 (41.6)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	45.0 (29.1)	31.7 (19.1)	36.2 (25.4)	57.6 (37.9)	63.7 (37.5)
	終了したが複数内定保持	4.3 (3.1)	4.6 (3.4)	4.6 (1.7)	4.1 (3.4)	3.4 (3.8)
	進学などの理由で活動を中止	0.5 (0.7)	0.0 (0.0)	0.4 (0.6)	0.7 (1.5)	1.4 (1.0)
	就職活動継続	50.2 (67.2)	63.7 (77.5)	58.8 (72.3)	37.6 (57.1)	31.5 (57.7)

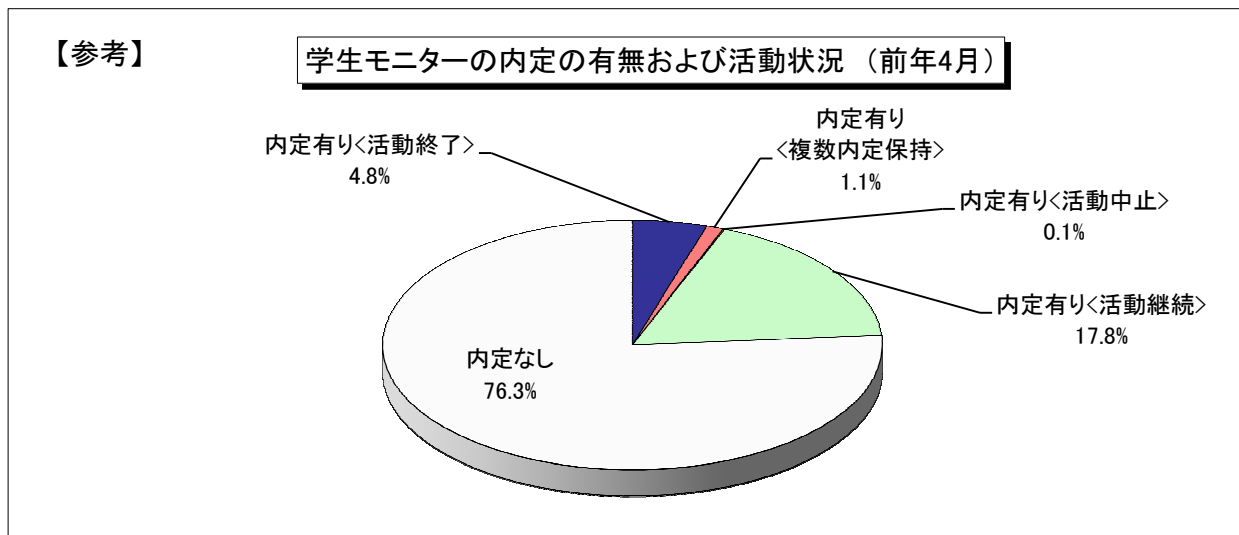
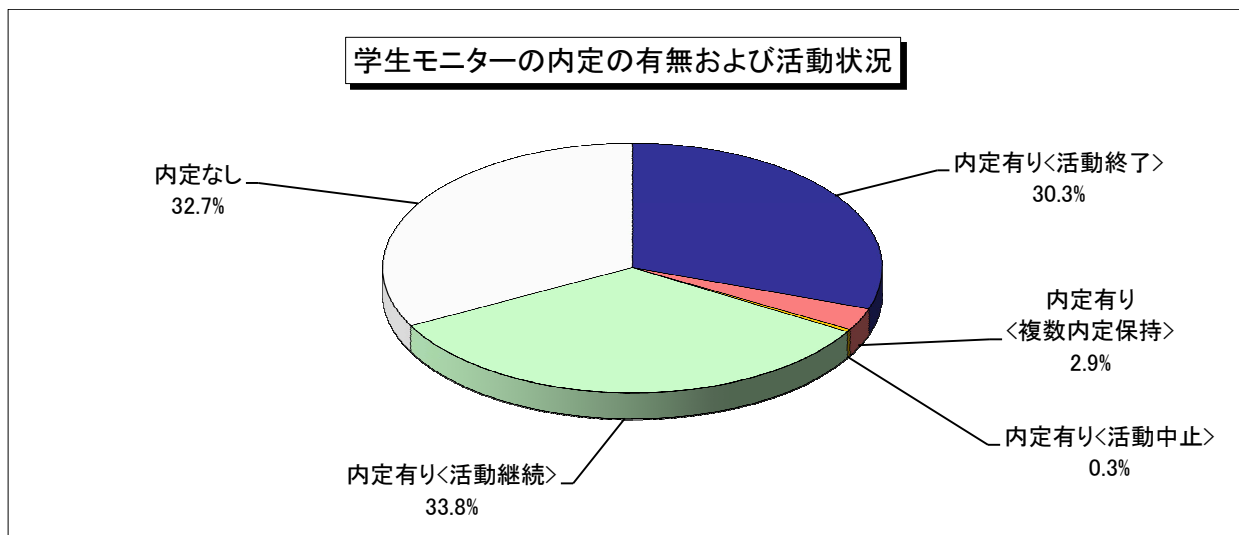
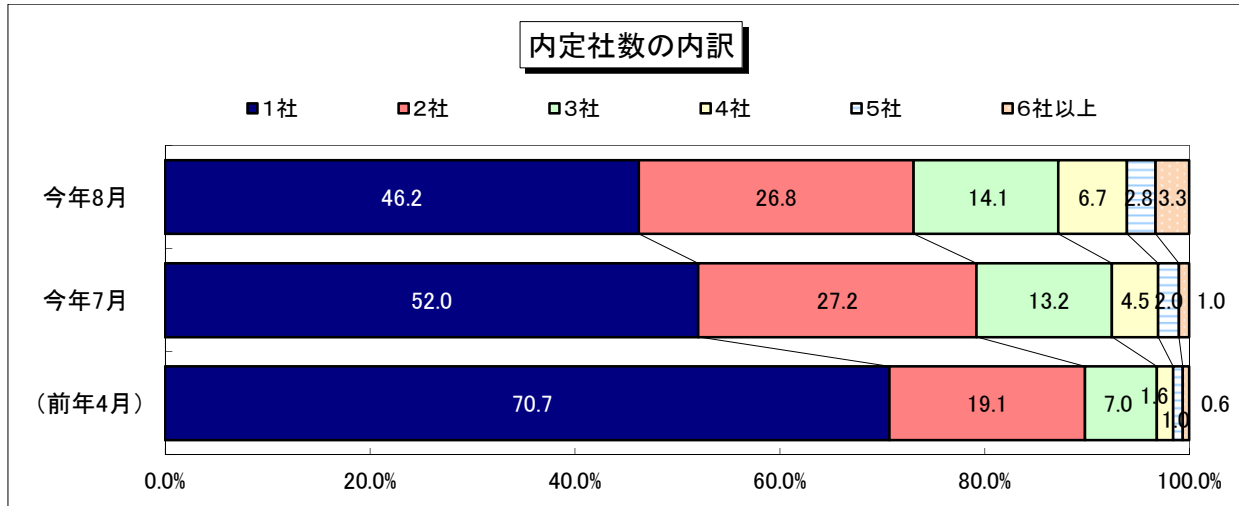
※()内は2015年の同調査での7月1日現在の数値



(社)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数／平均	2.1 (1.8)	2.5 (2.0)	2.0 (1.6)	1.9 (1.8)	2.0 (1.8)

※()内は 2015 年の同調査での 7 月 1 日現在の数値



2. 内定を得た業界

8 月 1 日現在で内定を得ている学生に、内定企業の業界を聞き、上位業界をまとめた (全 40 業界。複数回答あり)。

7 月調査に引き続き「情報処理・ソフトウェア」が最も多く、25.9%と依然内定が集中している。文理男女別でもすべての属性で 1 位であり、幅広い層で内定を獲得している。

2 位は「建設・住宅・不動産」(14.6%)で、7 月調査と同順位。3 位の「電子・電機」は、特に理系男子で内定者が多く、理系男子では 2 位となっている。

7 月調査から大きく順位を上げたのが 5 位「保険」(9.0%)、8 位「銀行」(7.5%)の金融機関で、とりわけ文系で順位が高い。文系学生を中心に一気に内定が出た様子が見える。

内定を得た業界

※5つまで選択 (%)

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 25.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 28.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 26.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 24.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 22.6
2	建設・住宅・不動産 ② 14.6	建設・住宅・不動産 22.8	商社(専門) 13.5	電子・電機 15.2	医薬品・医療関連・化粧品 21.9
3	電子・電機⑥ 9.6	コンビニエンス・GMSストア 15.8	保険 12.7	機械・プラントエンジニアリング 14.1	水産・食品 15.8
4	商社(専門) ④ 9.3	商社(専門) 13.2	その他サービス 10.8	自動車・輸送用機器 13.1	素材・化学 13.7
5	保険 ⑰ 9.0	銀行 12.9	銀行 10.4	建設・住宅・不動産 12.4	建設・住宅・不動産 13.0
6	素材・化学 ⑪ 8.3	保険 11.6	コンビニエンス・GMSストア 8.5	素材・化学 12.1	その他サービス 8.2
7	コンビニエンス・GMSストア⑥ 7.9	運輸・倉庫 10.6	建設・住宅・不動産 8.5	医薬品・医療関連・化粧品 8.3	人材紹介・人材派遣 8.2
8	銀行 ⑳ 7.5	調査・コンサルタント 9.9	ホテル・旅行 6.9	水産・食品 7.6	調査・コンサルタント 7.5
9	自動車・輸送用機器 ⑨ 7.3	電子・電機 8.6	運輸・倉庫 6.5	人材紹介・人材派遣 7.2	商社(専門) 6.8
10	調査・コンサルタント ④ 6.9	情報・インターネットサービス 6.6	情報・インターネットサービス 6.5	調査・コンサルタント 6.9	情報・インターネットサービス 6.8
	機械・プラントエンジニアリング ⑧ 6.9	証券・投信・投資顧問 6.3	専門店 6.5	情報・インターネットサービス 6.6	電子・電機 6.8
	運輸・倉庫 ⑭ 6.9	専門店 5.9	電子・電機 6.2	精密機器・医療用機器 6.2	専門店 6.2
13	医薬品・医療関連・化粧品 ⑬ 6.8	自動車・輸送用機器 5.6	マスコミ 5.0	保険 5.5	機械・プラントエンジニアリング 4.8
14	情報・インターネットサービス ③ 6.6	教育 5.0	素材・化学 5.0	運輸・倉庫 4.8	精密機器・医療用機器 4.8
15	その他サービス ⑨ 6.4	素材・化学 5.0	教育 4.6	通信関連 4.8	コンビニエンス・GMSストア 4.1
	水産・食品 ⑫ 6.4	機械・プラントエンジニアリング 4.6	自動車・輸送用機器 4.6	エネルギー 4.5	運輸・倉庫 4.1
17	人材紹介・人材派遣 ⑮ 5.1	マスコミ 4.3	人材紹介・人材派遣 4.6	その他サービス 4.1	官公庁・団体 4.1
18	専門店 ⑮ 4.7	信用金庫・労働金庫・信用組合 4.3	信用金庫・労働金庫・信用組合 4.2	証券・投信・投資顧問 3.4	自動車・輸送用機器 4.1
19	教育 ⑱ 3.8	その他サービス 4.0	官公庁・団体 3.8	鉄鋼・非鉄・金属製品 3.1	通信関連 4.1
	通信関連 ⑱ 3.8	水産・食品 4.0	証券・投信・投資顧問 3.1	銀行 2.8	保険 4.1
	証券・投信・投資顧問 ⑳ 3.8		調査・コンサルタント 3.1	商社(専門) 2.8	

※○の中の数字は先月調査の順位

※上位 20 業界を掲載

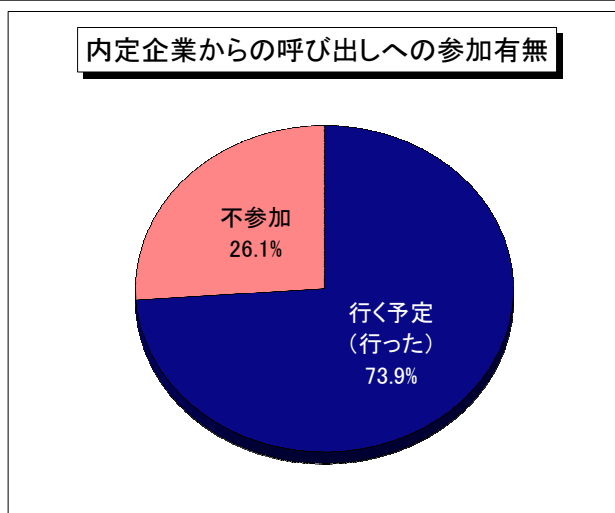
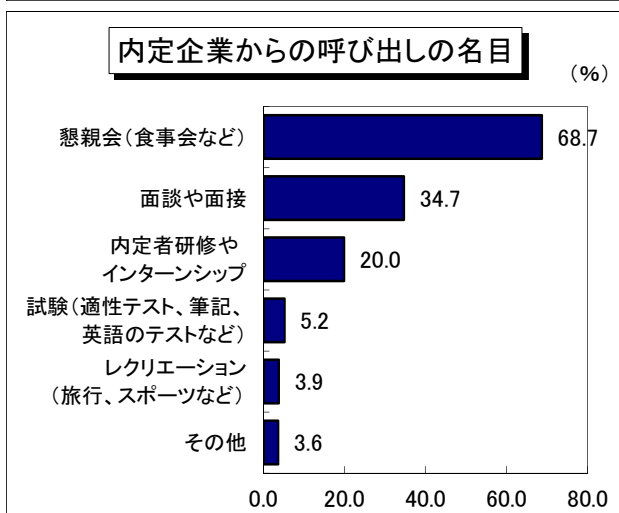
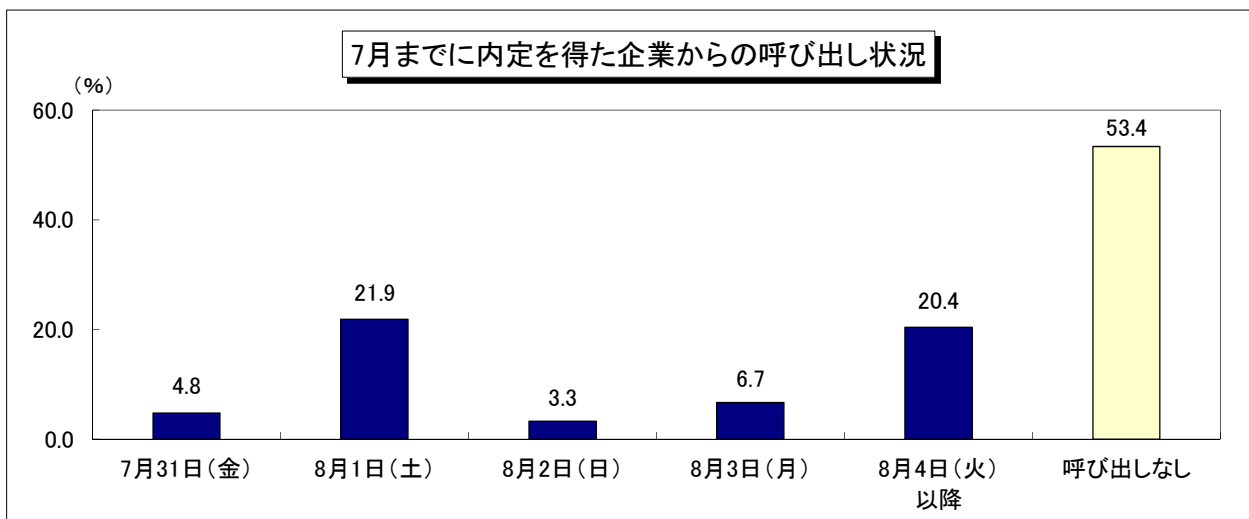
3. 8月1日前後の内定企業からの呼び出し有無

前月に実施した企業調査 (2015 年 7 月調査、有効回答 1,144 社) では、8 月の選考解禁と同時に面接をスタートするという企業は全体の 10.1%にとどまり、それより前の開始が 8 割を超えていた。早期に内定を出した企業の中には、8 月 1 日前後に内定者を囲い込むケースが出ると予想されたが、実際はどうだったであろうか。結果をみると、今回の調査では内定企業から呼び出しを受けた学生は半数弱 (46.6%) であった。解禁当日の 8 月 1 日に呼ばれた学生は 21.9%であり、8 月 4 日以降は 20.4%という状況であった。(呼び出しの日程は複数回答)

この数字を見る限り、内定企業から呼ばれていない学生は 53.4%と過半数を占めており、「内定企業の囲い込み」はそれほど多くなかったと言える。

何らかの呼び出しを受けたという学生に、どのような名目で呼ばれたのかを尋ねたところ、食事会などの「懇親会」が 68.7%と最も多く、「面談や面接」34.7%、「内定者研修やインターンシップ」20.0%と続いた。

これらの呼び出しに対して、「行く予定 (行った)」と回答した学生の割合は 73.9%。残りの 26.1%は「本命」の企業の選考に回ったと捉えると、意外と少ないという印象を持つ人が多いのではないだろうか。ただ、8 月 1 日前後の囲い込みだけで内定辞退を防ぐことはできず、先に見たように重複内定が過半数といった状況を考えると、今後多くの内定辞退者が出てしまうことが懸念される。



4. 8月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

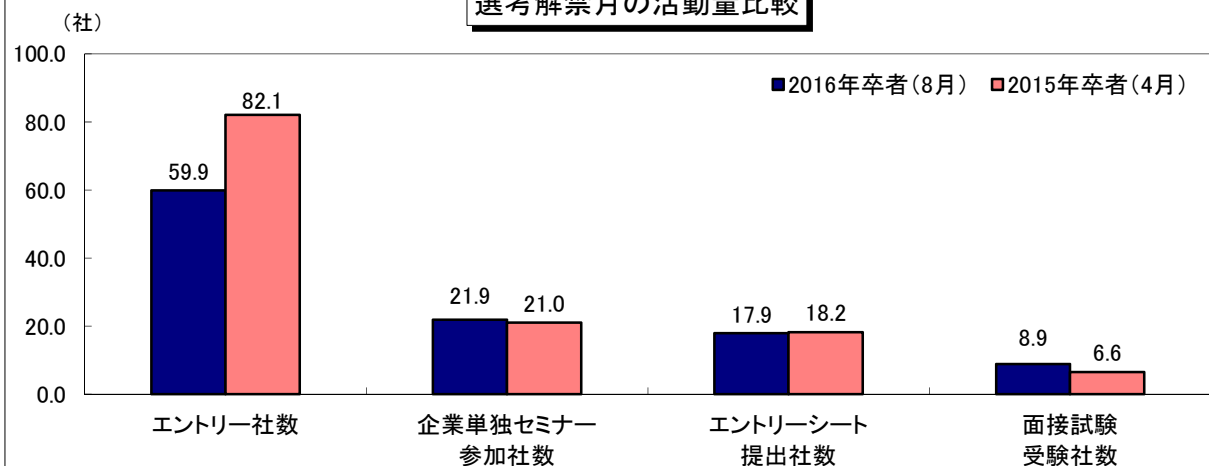
8月1日現在の活動量を表にまとめた。一人あたりのエントリー社数の平均は59.9社で、先月(今年7月)時点の58.3社から1.6社の微増にとどまった。これを昨年度の選考解禁月(2014年4月)の数値と比較してみると、昨年度は82.1社だったので、3割近く少ないことがわかる。採用広報解禁が例年より3カ月遅くなったことで、事前に企業を絞り込んで就職活動をスタートした学生が増えたことと、今年は採用広報解禁と同時に企業セミナー開催のピークが来たため、就職活動を進めながら徐々に志望を広げていくという従来の活動スタイルが取れていない可能性が考えられる。

企業単独セミナーの参加社数は21.9社、エントリーシート(ES)提出は17.9社と、これらについては前年4月実績(21.0社、18.2社)とほぼ同水準を保っており、実際の活動量は例年と大きな変化はないと言ってよいだろう。筆記試験や面接試験などの選考試験受験社数については、前年4月実績を上回っているが(筆記11.8社→12.5社、面接6.6社→8.9社)、大手企業の選考が本格化する前に、動きの早い中堅中小企業の選考を受ける学生が増えたことによる影響と思われる。

8月1日現在の就職活動の状況

	全体	今年7月	前年4月	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー (社)	59.9	58.3	82.1	69.0	65.7	45.5	55.7
セミナー・説明会参加 (社)	51.8	50.6	49.0	58.7	58.7	40.5	43.9
企業単独開催のもの (社)	21.9	21.1	21.0	26.2	24.0	15.8	20.1
合同開催のもの (社)	15.7	15.5	15.6	17.1	19.6	11.6	12.2
学内開催のもの (社)	14.2	13.9	12.4	15.4	15.0	13.1	11.5
オンラインセミナー視聴 (社)	7.0	6.9	6.5	7.5	6.4	6.9	7.1
ライブ中継 (社)	3.6	3.6	3.3	4.0	3.3	3.5	3.6
オンデマンド(録画) (社)	3.4	3.3	3.3	3.5	3.1	3.5	3.5
エントリーシート提出 (社)	17.9	16.2	18.2	19.9	18.8	14.4	18.8
選考試験の受験社数 (社)	25.5	21.6	22.1	28.9	26.1	21.8	23.9
筆記・WEB試験 (社)	12.5	10.9	11.8	14.3	12.8	10.4	11.7
面接試験 (社)	8.9	7.1	6.6	9.9	9.3	7.8	8.1
グループディスカッション (社)	4.2	3.6	3.7	4.8	4.0	3.6	4.1

選考解禁月の活動量比較



5. 就職活動継続者の動向

ここからは就職活動継続者の動向を見ていこう。内定保持者も含め、8 月 1 日現在で就職活動を継続している学生（モニター全体の 66.5%）の、現在選考中の企業数は平均 3.9 社。これから受験する予定の企業数は 2.7 社。いわゆる「持ち駒企業」はあわせて 6.6 社となっている。6 月時点では 12.8 社あったが、7 月には 9.8 社、8 月は 6.6 社と、持ち駒企業の数は一ヶ月ごとに減少している。

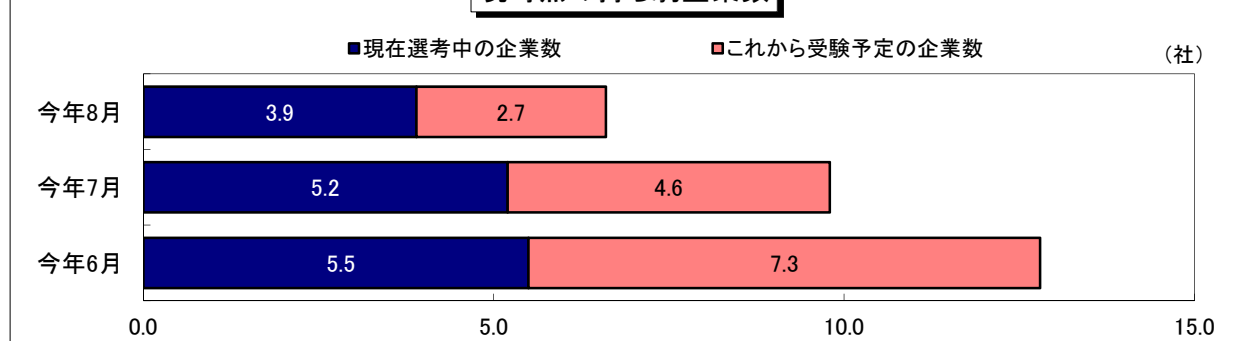
そんな中、今後の就職活動の方針・戦略について尋ねると、「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」という割合は 2 割程度にとどまり（21.3%）、最も多いのは「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」（41.1%）であった。「新たな企業を探しながら…」は毎月少しずつ割合を下げているが、「現在選考が進んでいる企業に絞って…」と回答した層が希望の企業から内定をもらえなかった場合、これから新たな企業を探すことになる予想され、持ち駒企業を増やす必要性に迫られる学生も出てくるだろう。

いずれにせよ就職戦線の行方はまだまだ不透明であり、今後の動向に注目していきたい。

就職活動継続者の状況(平均社数)

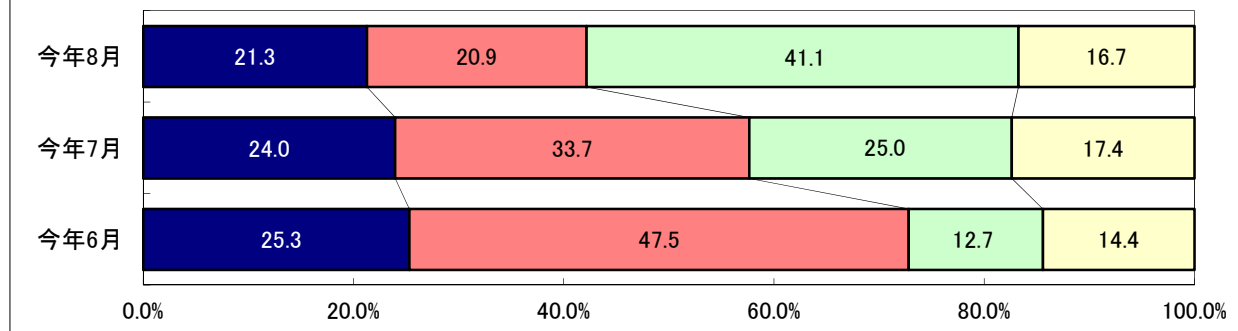
	全 体	内定あり	内定なし	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	3.9	3.9	3.9	4.5	4.1	2.9	3.9
これから受験予定の企業数	2.7	2.2	3.3	2.8	3.1	2.2	2.6
今後のエントリー予定社数	3.5	1.7	5.4	3.9	3.4	3.3	3.0

現時点の持ち駒企業数



今後の就職活動の方針・戦略

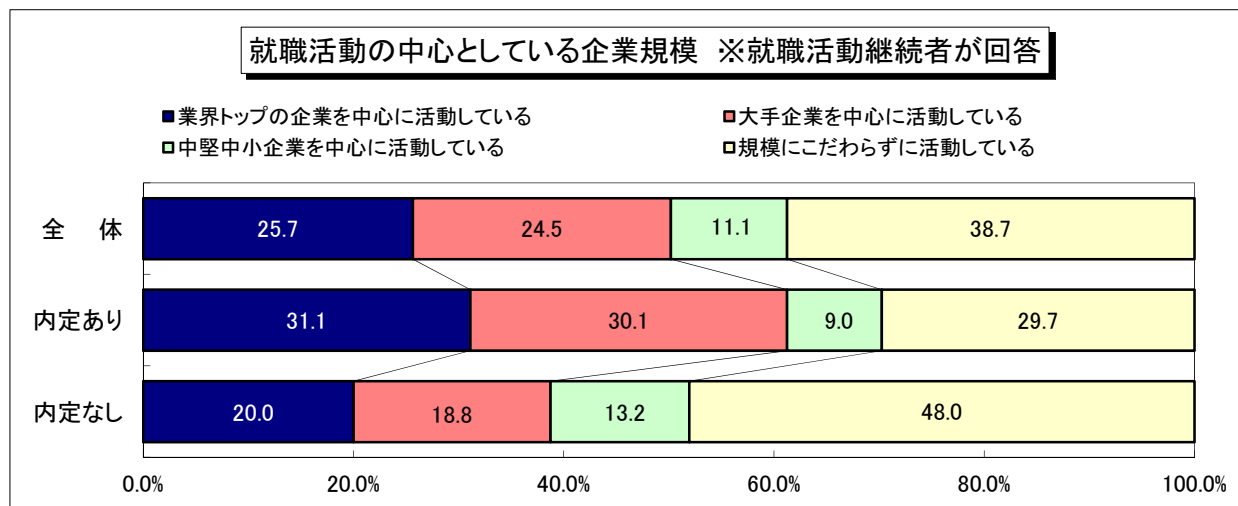
- 新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく
- これまで興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業のみ絞って活動する



内定者も含め就職活動を継続している学生に、現段階で就職活動の中心としている企業規模を尋ねたところ、「業界トップの企業」25.7%、「大手企業」24.5%で、いわゆる「大手志望」合計は50.2%と過半数にのぼった。

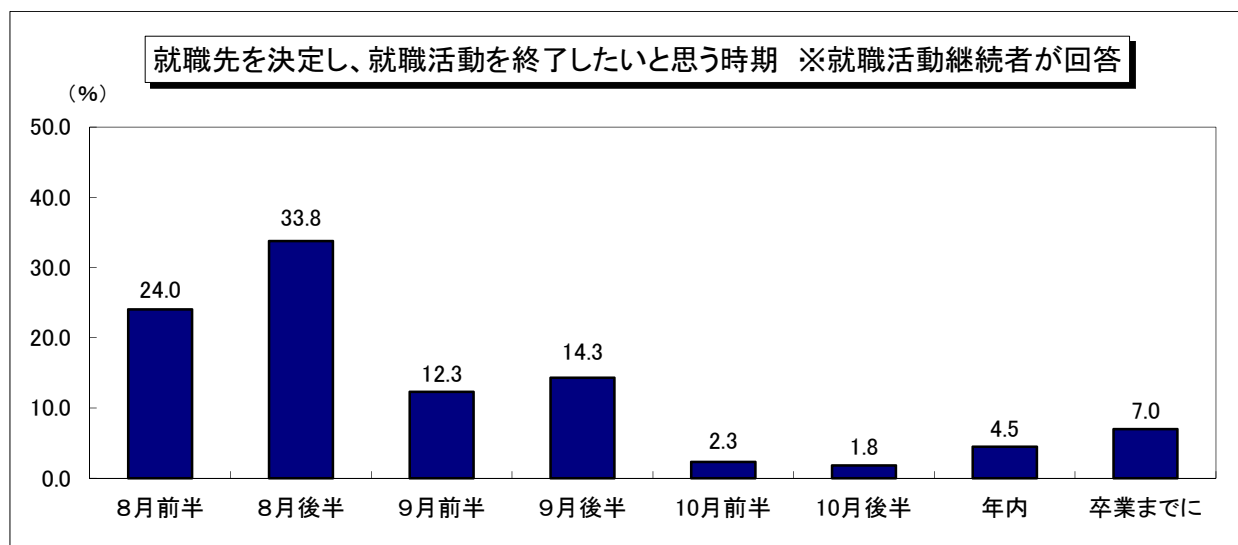
これを内定有無別に見てみると、内定ありグループで大手志向がより強いことがわかる。「業界トップの企業」31.1%、「大手企業」30.1%で、大手狙いは6割を超える（61.2%）。

内定なしグループでは「規模にこだわらずに活動」が約半数（48.0%）を占めている。



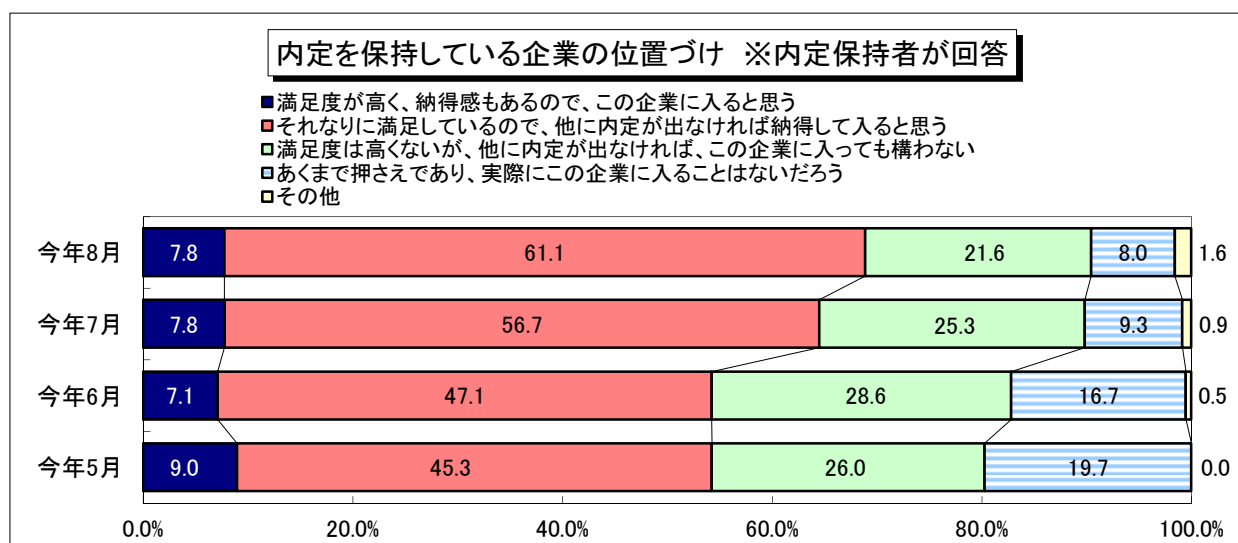
就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねたところ、「8月後半」と答えた割合が33.8%と最も多く、次いで「8月前半」が24.0%と続いた。選考解禁直後ではあるが、就職活動中の学生の約6割（57.8%）が、この1カ月のうちに就職先を決めたいと考えていることがわかる。これまでの調査でも、多くの学生は「8月」の山場に向けて目標を定めている様子が見えたとはいえるが、現段階でもその意向に変化は見られない。

「9月後半」までを合計すると84.4%となり、10月1日の正式内定解禁日までには就職先を決めたいと考える学生が8割を超える。就職活動中の学生の多くが短期決戦を望んでいるようだ。



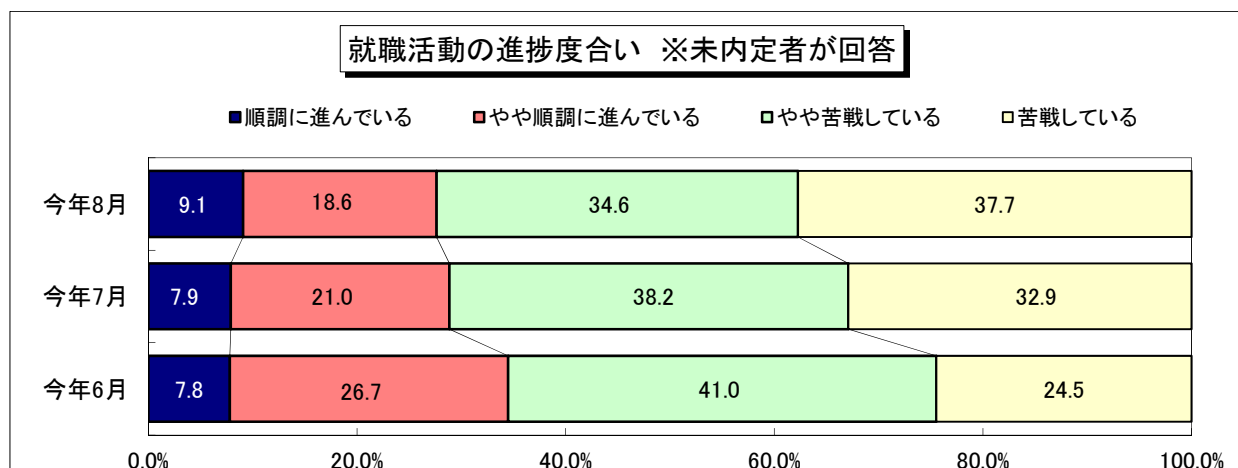
6. 内定保持者の動向

内定者の過半数 (50.2%) が内定を保持して就職活動を続けているが、内定を保持している企業をどう位置付けているかについて過去 4 カ月の推移を見てみよう。6 月から 7 月にかけて「それなりに満足しているので、他に内定が出なければ納得して入ると思う」との回答が 47.1% から 56.7% へと大きく伸びたが、8 月調査では 61.1% へとさらに数字を伸ばした。「本命」の企業に内定を得られればそちらに行くし、結果が芳しくなければ、このまま内定保持企業に決めるということだろう。一方、「あくまで押さえであり、実際にこの企業に入ることはないだろう」は 5 月の 19.7% から徐々に割合を下げ、8 月は 8.0% にまで減少した。



7. 未内定者の進捗状況

内定率が 7 割に迫る中 (67.3%)、まだ内定を得ていない学生に自身の就職活動の進捗度をどのように感じているかを尋ねた。「順調に進んでいる」9.1% と「やや順調に進んでいる」18.6% とを合わせて 27.7% が「順調」と回答しているのに対し、「苦戦している」は 6 月調査からの 2 カ月で 24.5% から 37.7% へと増加が目立っている。就職先を決めて次々と活動を終えていく学生がいる一方で、なかなか内定の出ない者にとっては一層厳しい就職戦線となっている様子がわかる。



■就職活動に関して思うこと (内定者)

- 正直に言えば今年は売り手市場だったということもあって就活は楽だったように感じられる。一方で1人の学生に内定が集中しがちなように思える。 <文系男子>
- 企業によって採用活動のタイミングがバラバラで、結果的に就職活動の期間が長くなっていて、研究などに支障が出ているような気がします。 <理系男子>
- 今年度の就職活動は、「学歴」「インターンシップ参加」の重要性を改めて痛感するものであった。早期から行動を開始していた友人は納得のいく企業から内定を得ることができているが、後ろ倒しだからと漫然とした日々を送っていた学生は非常に苦しんでいるように感じる。 <文系男子>
- 充実した大学生活が充実した就職活動に直結すると実感している。 <文系女子>
- 選考開始前(8月1日前)に内々定を出している企業もあるが、「就職活動を終了して欲しい」と懇願され困った。半ば強制的に「はい」と言わせられた企業もあった。早期内定を出すのは良いが、もう少し検討する猶予を設けて欲しかった。結局、「就職活動を辞めます」と言いながら、私の周りの人のほとんどが、就職活動を続行していた。「オワハラ」は企業にとっても就活生にとってもマイナスだと感じた。 <文系男子>
- 日程が表面上後ろ倒しになったことで、企業間で内定の出る時期が大きく開いたと感じる。今後長くお付き合いする企業なので、ある程度選択肢を持った上で最終決断をしたいが、就職活動を続けているにもかかわらず内定承諾書などを書かされると、書類にたとえ法的拘束力がないとしても心的負担がかかり、大変やりづらい。 <文系女子>
- 内定が出る時期が8月以降になり長引いたため、結果的に学業にあてる時間が減った。そのため、現在は学業面での焦りがある。 <理系女子>
- 就活の長期化。理系院生は、大学での研究に力を注げない。 <理系男子>
- 現在の就職活動には疑問を覚えるが、しょうがないと諦め、それなりに活動した。 <文系男子>
- 7月後半から内定が増え、希望の企業からも内定を貰えた。あまり企業の数を受けなくても内定を取れたので、今年はやはり売り手市場だったのかと感じた。スケジュールが読めず苦勞したこともあったが、自分のやりたいことができる企業に行けることが決まり、大変満足している。 <理系女子>

■就職活動に関して思うこと (未内定者)

- 第一志望に落ちると辛い。気持ちが落ち込んだまま、暑いなかスーツを着て頑張れるのかな・・・ <文系男子>
- 今年から就職活動の時期が遅くなったものの、守っている企業も少なく、真に受けた学生は苦戦すると思います。 <理系男子>
- 内定が出る時期に差があるのは仕方ないことだが、やはり周りと比べて焦ってしまう時期がある。 <理系女子>
- 情報がたくさんあるので、自分に必要な情報を見つけるのが難しい。 <文系女子>
- 毎回、面接のあとにフィードバックがあればいいのになと思う。その場で評価してくれる企業もあるが、面接のときに書いている紙が気になる。 <文系男子>
- 期間が長すぎるため、7月には中だるみの感が否めなかったと思う。 <文系女子>
- クールビズを徹底しなければ、来年には学生の中に熱中症になる人が出てくると思います。「最終面接には、クールビズで来てください」と明確に伝えてほしい。 <文系男子>
- 今の時期の就職活動にメリットは感じられないです。インターンシップを含めた就職活動の長期化、企業による採用活動のばらつき、研究の進捗の妨げなど。時期の見直しはする必要があると思います。 <理系男子>
- 交通費や成績証明書などの各種証明書代(発行に一通200円程度かかるため)がかなり負担です。あまり長引くとお金の面でもつらいです。 <文系女子>